

2025年2月15日
第199回海洋フォーラム
「最前線から見る日露関係 - 未来を見据えて」

ロシアから見た日本

笹川平和財団
畔蒜泰助

露ヴァルダイ・クラブとは？

- ・国際問題を扱うロシアの主要研究機関が参画して立ち上げた国際フォーラムである。
- ・ロシア大統領府の管轄下にある。
- ・毎秋にロシア国内外の専門家を黒海沿岸のソチに招待して年次総会を開催する。
- ・その最終日には必ずプーチン大統領が登壇し、参加者と質疑応答を行う。
- ・2022年2月24日に勃発したロシア・ウクライナ戦争後、プーチン大統領が公の場で日本に言及したのは僅か3回だけ。その内の2回がこの年次総会での質疑応答での事である。

プーチン大統領との質疑応答

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)



東アジアの安全保障環境への言及①

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

フョードル・ルキヤノフ：貴方（＝プーチン）は（先ほど）日本に言及されましたね。畔蒜さん。

畔蒜：ありがとうございます。笹川平和財団の畔蒜泰助です。

東アジアの戦略的環境は緊迫の度を増しています。その中心にあるのは、米国と中国の戦略的対立です。ロシアはこの対立において明らかに中国の側についています。ロシアと中国の合同軍事演習の頻度は、この地域で著しく増加しています。

一方、アジアは多くの価値観を持つ地域であり、この地域におけるロシアの戦略的利益は中国との関係に限定されるべきではないでしょう。ロシアは次の2つの課題をどう両立させようとしているのですか？

一方では東アジアにおける米中対立の中でのロシアの立場、他方ではこの地域におけるロシアの戦略的多国間利益のための空間の維持という2つです。

それでもうひとつ、この戦略的文脈の中で、例えば5年後の日露関係の将来をどう評価しますか？

ありがとうございました。

東アジアの安全保障環境への言及②

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

ウラジーミル・プーチン：確かに、東アジア情勢は落ち着いていないし、安定していない。もちろん、中国は最も近いパートナーであり友人だが、私は客観的に話をしようと思う。

中国は何らかのブロックを作っているのだろうか？私は中国を擁護するつもりはない。中国には多くの国内問題があることは理解しているが、隣国間には常に問題がある。しかし、経験豊かで、有能で、自国民の将来を考えている人々は、妥協点を探し、それを見つけるものです。‘（中印間にも問題があるが）カザンで開催されたBRICSサミットを含め、彼らは対話を行っており、これが今後の中印関係の発展に良い影響を与えることを期待している。

東アジア全体の状況については、中国がブロックを作っているのだろうか？一つのブロック、第二のブロック、第三のブロックと、ブロックを作っているのは米国だ。今や、NATOがこれに正式に関与しようとしている。ある大国の明らかな指示のもと、閉鎖的な軍事・政治ブロックが作られると、良いことは何も起こらない。他のすべての国々は、原則として、このようなブロックを作る国家の利益のために働く。そして、何でも簡単に賛成する人たちに考えてもらいたい。

もし何らかの問題が生じたとしても、それは常に隣国間で生じるものである。それでも私たちは、地域レベルにおいて、外部からの干渉を受けずに、これらの国々の指導者たちが妥協点を見いだす強さ、勇気、忍耐、そして意欲を見いだすよう努力すべきである。この姿勢が勢いをつければ、妥協点は必ず見つかるだろう。

東アジアの安全保障環境への言及③

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

したがって、中国に攻撃的な意図があると非難するのは完全に間違っていると思う。攻撃的なブロックを形成しているのは中国ではなく、同じ米国なのだから。

さて、ロシアが中国の味方であり、こうしたブロックを作る側の味方ではないことについてはどうでしょうか？もちろん、我々は中国の味方だ。中国がこの地域で攻撃的な政策をとっているとは考えていないからだ。

多くのことが台湾を中心に動いている。台湾が中国の一部であることは誰もが形式的には認めている。しかし現実には？実際にはまったく違う方向に行動し、状況を悪化させる側に挑発している。なぜ？ウクライナ危機を引き起こしたのと同じ理由ではないか？アジアに危機を作り出し、世界の他の国々にこう言うためだ。？“Get over here! You need me to cope with this.” Perhaps, this is the logic that underlies the events in Asia as well?

だから我々は中国を支持している。なぜなら、中国が絶対的にバランスの取れた政策を追求していると信じているからであり、また同盟国でもあるからだ。我々は非常に大きな貿易取引高を持ち、安全保障分野で協力している。

東アジアの安全保障環境への言及④

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

軍事演習をしていると言いましたね。はい、やっています。しかし、米国は日本や他の国々と定期的に軍事演習を実施していないのか？

私はかつて1990年代後半から、ロシアが戦略爆撃機を飛行させなくなつたと指摘した。米国が中立地帯での長距離飛行を続けたのに対し、我が国は中立地帯での長距離飛行を行わなかつた。我々はその動きを観察し続けて、ついに戦略爆撃機の飛行も再開したのです。

この場合も同じだ。アメリカはそこで延々と軍事演習を続けてきた。やがて我々と中国も軍事演習を始めた。しかし、軍事演習は誰かを脅かすものではなく、私たちの安全を確保するためのものです。そして私たちは、これがアジアだけでなく、全世界の状況を安定させるための正しい手段だと信じている。

そして、この地域の国々は何も恐れることはない。中国との一般的な協力、そして軍事・軍事技術分野での協力はわが国の安全保障を強化するためのものであり、第三国を敵視するものではありません。

日露関係への言及①

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

日本との二国間関係については、私があなたの同僚に話を繰り返そう。我々は日本との関係を悪化させてはいない。最近、私たちが日本に対して何か悪いことをしたでしょうか？私たちは交渉し、平和条約という非常に難しい問題に対する答えを見つけようとしてきた。

ところで、1956年の宣言に基づく妥協の可能性については疑問が呈されていた。我々はソ連で批准もした。しかし日本側はそれを拒否した。しかし、日本側の要請により、我々はこの宣言に立ち返り、対話を再開した。たしかに簡単なことではなかったが、全体として、私たちは相手の話を聞き、この1956年の宣言に基づいて何をどのように築いていくかを考えた。

すると突然、日本は私たちに対して制裁を課し、ロシアを脅威のリストに加えた。何が脅威なのか？日本に対する脅威とは何だ？我々に制裁が課せられた。私たちがあなた方に何をしたのですか？なぜそんなことをしたのか？ワシントンから命令があったからか？まあ、パートナーや同盟国を怒らせることなく、「やあ、みんな、考えておくよ」と言うこともできただろう。何の疑いもなく命令に従わなければならなかつたのか？なぜそんなことをしたのか？私には理解できない。

日露関係への言及②

(2024年11月7日、ヴァルダイ・クラブ年次総会@ソチ)

日本にはまだ頭のいい人たちがいる。特にエネルギー分野では協力を続けてくれるし、私たちの（合弁）会社から離脱していない。日本が制裁を課しているにもかかわらず、私たちは何もしていない。日本企業は我々と協力してきたし、現在も協力している。

現在、アメリカ企業からも、わが国市場への復帰を望むシグナルがいくつか出ている。もちろん、新たな条件下で、損失は覚悟すべきだ。しかし、それは我々の責任ではない。

彼らは、今後5年間、そして今後50年間、日本との関係を築いていく用意がある。日本は隣国であり、私たちにとって自然なパートナーです。私たちの関係の歴史にはさまざまな時期があり、悲劇的なページもありましたが、誇りに思えることありました。

我々は日本を愛し、日本文化を愛し、日本食を愛している。私たちは何も破壊していない。自分たちで結論を出してください。私たちはここでふざけたり、ごまかしたり、突き返したり、何か責任を押し付けるようなことはしません。準備はできています、戻ってきてください、それだけです。

これ以上付け加えることはないでしょう。

もつれた日露関係の糸をほどく鍵は？

- ・強い米国への不信感の緩和
⇒ウクライナ戦争の停戦・和平が実現したらその第一歩
- ・日本の国益の基づいたロシアとの関係維持・発展
⇒エネルギー・漁業分野は重要な柱
- ・中長期的な露中関係の変化